

令和2年度沼津市総合計画審議会 第1回全体会議の概要

日時：令和2年10月12日(月) 10:00～11:30

場所：沼津市水道部庁舎 3階会議室

資料：次第、資料1～4

1 開会

2 「第5次沼津市総合計画基本計画(案)」に係る各部会での審議内容について (合同部会、①元気・健康部会、②産業・観光部会、③快適・安心部会)

始めに事務局より資料1、2について説明。

その後、各部会代表者から審議内容等について報告。

①元気・健康部会 清水賢嗣部会長代理

- ・柱1、5、6について議論を重ねた。
- ・どの柱においても、新型コロナウイルス対策である新しい生活様式に則したまちづくりが必要であると感じた。
- ・部会での議論を進めていくなかで、コロナ禍においては、エッセンシャルワーカーの働きが非常に重要であると感じた。
- ・「誇り高い沼津」を目指して、総合計画に記載のあるプランについて取り組まなくてはならないと感じている。

②産業・観光部会 中山部会長

- ・2回に渡り、柱3、4について議論した。
- ・柱3においては産業振興について議論した。商業では、地元の産業・農作物等とのコラボレーションの推進、工業では、首都圏の企業誘致の推進、移住しながら働くという新しい働き方の促進などの意見がでた。また、様々な産業を組み合わせることで、イノベーションを起こし、活性化につなげなくてはならない等の意見がでた。
- ・柱4では、コロナ禍という状況であるため、柱3と同様に、地域循環による経済社会の構築が必要であるなどの意見がでた。
- ・体験型やオンラインを活用した観光など、新しいスタイルを取り入れながらの観光を模索していく必要があるなどの意見がでた。
- ・非常に積極的に議論ができたと思う。

③快適・安心部会 梅田部会長代理

- ・市民に分かりやすく、誤解のないよう文章の検討をした。
- ・柱2では、「沼津駅周辺の整備」において、計画内容がわかるようなイメージ図の追加を求めた。
- ・柱7では、「災害に強いまちづくり」等において、女性の視点や感染症対策を含めた避難所運営などに関して、市民にわかりやすい表記が必要との意見がでた。
- ・また、「安全で快適な交通社会」において、歩行者、自転車への安全配慮の記述を整理

し、追記を求めた。

- ・柱8では、「環境への負荷の低減」において、市としての地球温暖化対策のために再生可能エネルギーの導入を推進していく姿勢を打ち出したうえで、エネルギー施設の無秩序な立地が市民生活や景観、生態系などにもたらす負の影響にも対処していくという姿勢を表現した。

3 各まちづくりの柱における重点取組施策・主要指標（案）について

事務局より、資料3について説明。

4 質疑応答

委員) 柱6⑬「定期的に運動をしている市民の割合」について、少年団や運動教室などの参加者数等を反映できればいいと思う。

委員) 柱5⑪「合計特殊出生率」、⑫「特色ある教育が行われていると感じている保護者の割合」について、施策とつながりがないように感じる。また、重点取組施策のなかでICT社会の創造関係の記載があるが、数年かけて学校現場のICT化を進めていく予定だったが、国の方針が変更になり、今年度中に大幅に充実するため、10年間の取組施策として適切かどうか検討してほしい。

委員) 市民アンケートのなかにも指標として活用できる重要なファクトがあると思う。

委員) コロナ禍により状況が変わってきているため、改めて現状値を取り直すことも必要なことだと思う。

委員) 柱2に関して、まちづくりはハードとソフトが必要だと思う。先進的技術という文言がソフトにあたると思う。ハードの面で、新交通という文言が入ればさらに良い取組施策になるのではないかと感じた。

委員) 柱7⑯「公共交通利用者数の増加」はこの柱の趣旨に合わないのではないかと考えた。もし、この指標を使うのであれば、公共交通にはタクシーも含まれる考え方であるので、タクシーも含めて考えて頂きたい。柱2においても、タクシーなど公共交通についての通行量の指標があればさらによいと考える。また、市民アンケートで、公共交通の環境整備について尋ねる項目があればと思う。

委員) 柱1②「男女共同参画認定事業所の数」について、男女共同参画の意識浸透はまだできていないと感じているので、事業所だけで意識するのではなく、どこのジャンルにも意識してもらえそうな指標になるよう工夫できればと感じた。

委員) そもそも市民アンケートはどのようなものなのか。

事務局) 総合計画策定に当たっての市民アンケートについては、H30年度に行った。それとは別に、毎年、市民2,000名を無作為抽出した市民意識調査を行っている。質問内容は、各課から依頼された毎年異なる事項と、施策の満足度を計る「施策の推進に関するアンケート」がある。

委員) 柱7に関して、公共交通の利用促進や自転車利用環境の整備は、安全のための手段であって、直接的に安全になったという結果にはならないと思う。交通事故を減らす

ために公共交通を利用してもらうことになるので、事故件数などの指標についても検討が必要だと思う。

会長) 施策を的確に計る指標はほぼないと考えている。そのようななかで、ある程度設定するものである。施策は多くのものに関係しているため、一面しか図れない指標ではそもそも無理がある。現状と課題をみるための指標としてもよいのではないか。一概に何が正しいとは言えない面もあるので、事務局はよく検討してほしい。

5 今後の予定について

事務局より、資料4を説明。

6 閉会